

筑波大学附属図書館 年報 2019 年度



University of Tsukuba Library

Annual Report

2019



目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2019

19

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 フォーカス (2019 年度の特徴的な活動・事業) 1) つくば市域における図書館連携と地域活性化への展望 2) 次世代学習スペース整備検討～アクセシブルな学術図書館 3) 高大連携の取り組み 4) 多様化する支援 5) 「令和元年度筑波大学附属図書館特別展～東京 1964 と日本文化について考える～」 6) 大学準公式キャラクター認定！
8	3 資料紹介 滝田樗陰旧蔵『近代作家原稿集』
9	4 職員の活動 1) 他機関視察報告 2) 文化庁「図書館等職員著作権実務講習会」への参加 3) 令和元年度 障害者サービス担当職員向け講座 4) 「第 17 回 日本古典籍講習会」受講報告 5) 国立情報学研究所「大学図書館員のための IT 総合研修」への参加 6) 論文発表 7) 職員研修会
13	5 トピックス 1) サービス・活動 2) イベント・セミナー・授業 3) 展示 4) 見学・来訪者 5) オリエンテーション・講習会 6) 研修・シンポジウム 7) 会議 8) 研究開発室
18	6 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 筑波大学附属図書館の刊行物 3) 出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料
21	7 附属図書館ボランティアの活動
22	8 組織図・歴代図書館長
23	9 統計

表紙写真

上：南側から見た中央図書館

下：「令和元年度筑波大学附属図書館特別展～東京1964 と日本文化について考える～」 展示品『日本』

裏表紙写真

上：LA企画展示

「現役大学院生がおくる あなたのまだ見ぬ大学院の世界
“だから私は大学院生になった!”」

体芸図書館「ユーリカ」

学生による作品「箔の腐食による表現」展示風景

中：常設展示 小特集「アスリートの肖像」

中央図書館 南側入口花壇のチューリップ

下：リニューアル後のレファレンスデスク

※本冊子に記載の所属・役職は全て2020年3月31日現在のものです。

館長挨拶

中央図書館 エントランス



副学長(企画評価・学術情報担当)・附属図書館長

阿部 豊

皆様のお手元に、2019年度の「筑波大学附属図書館年報」をお届けできる運びとなりました。本来、本年報は、昨年度一年間にあった附属図書館の活動をご報告するものですが、2019年度末より顕在化した新型コロナウイルス感染症の国内外での蔓延により、国ならびに地方公共団体からの緊急事態宣言を踏まえた本学での活動形態の決定に従って、2020年4月21日以降、全館休館の措置にいたっております。現在5月末時点においても、休館は継続中で、利用者のみならず、誠に不便をおかけしております。

利用者の皆様のご不便を出来るだけ緩和すべく、休館中の利用者への学習・研究活動に対するサービスとして、教員向けに、所蔵資料のオンライン授業用の貸出・複写サービスを、学位論文等執筆中の学生向けに、郵送による貸出・複写サービスを実施いたしております。さらに、今後、本学の活動形態の変更がなされた際、それに即して、感染リスクを避けるためのより一層の対策を行った上で、順次、開館とサービスを再開する予定で準備いたしております。今しばらくのご猶予を頂ければ幸いです。

2020年度は、このような始まりとなりましたが、2019年度は、筑波大学附属図書館として、これまでにない様々な取り組みを行うことができた年でした。本紙面にて、そのいくつかを紹介させていただきます。

筑波大学附属図書館では、大学における学習研究の情報基盤となる資料整備を、日々行っています。これらは単年度で成し得るものではなく、現在にいたる継続的な資料収集によって図書の所蔵数は270万冊を超え、雑誌の所蔵は3万タイトルに達しました。また電子ジャーナルは購読計画に基づき、今年度は3.2万タイトルを契約したほか、約3.5万タイトルの電子ブックと、31のデータベースを提供しています。当館が所蔵していない資料は、他の図書館との連携により入手し、利用者の手元に届けられています。このようにして収集、整備した資料を活用した本学教員等の研究活動の成果である様々な研究論文や報告書、博士学位論文は、つくばリポジトリに登録され、インターネット上で広く利用されています。

学術資料の整備とともに、多様な学びのスタイルへの対応と学習スペースの整備のため、次世代学習スペース整備検討タスクフォースを設置し、2019年度は中央図書館のサービス環境を見直しました。これにより、2020年3月までに飲食ルール変更の試行や、サービス窓口の動線を見直したメインカウンターと

レファレンスデスクの統合やボランティアカウンターの移動を実施するなど、学生をはじめとする利用者への円滑なサービス提供を進めています。また、多様化支援の一環として、車椅子利用者や視覚障害者の利用を踏まえた中央図書館本館2階のレイアウト変更、建物の周辺に備えている駐輪場の移動等により、利用者の安全と利便性の向上を図りました。

2019年9月25日には、館種を越えた連携を目指し、つくば市域図書館連携協議会をつくば市立中央図書館とともに設立しました。11月の大学祭では、記念セレモニーとともに中央図書館周辺を会場とした記念イベントを開催しました。今後はつくば市内の図書館の参画も促し、協働の場を広げた活動を進めることを目標としています。

2018年度から開始している本学附属学校を対象とした学習支援である「高大連携図書館サービスパッケージ」により、学校単位での図書資料貸出やレファレンスサービス、文献複写サービスを始めております。近隣の高等学校への取り組みとしても、これまで行っていた生徒を対象とした図書館利用説明会に加え、担当教諭を対象に開催したほか、附属学校と同じ図書の貸出を可能とした「高大連携図書館サービス」を始めました。

附属図書館が開催する特別展は、筑波大学が所蔵する資料を学内外に紹介するもので、毎回好評を博してきております。今年度は、「令和元年度筑波大学附属図書館特別展～東京1964と日本文化について考える～」と題して、本学体育系と共催しました。本特別展では、本学が体育・芸術図書館に所蔵するオリンピック関連資料のうち、東京オリンピック関連資料を中心に展示するとともに、本学教員による講演会やギャラリートークも行い、2019年11月1日から12月6日の会期中に1,940名の来場者がありました。

筑波大学附属図書館は、国立大学図書館協会が2016年6月に採択した「国立大学図書館ビジョン2020」の理念に立脚し、大学所属者へのサービスの充実はもとより、地域社会と連携したサービスを提供する活動を展開するなかで、開かれた図書館を目指すより一層の努力を重ねてまいります。

新型コロナウイルス感染症への対策とともに、収束後の開館に向けて対応を鋭意進めてまいります。皆様の積極的な利用ならびに附属図書館活動へのご理解とご支援を改めてお願い申し上げます。

(2020年5月30日)

2 フォーカス (2019年度の特徴的な活動・事業)

1. つくば市域における図書館連携と地域活性化への展望

1. 「つくば市域図書館連携に関する協定」の締結

筑波大学附属図書館は、館種を越えた図書館間の1)情報資源や活動成果の交流と活用、2)共同事業の企画及び実施、3)その他連携の推進を行うため、2019年9月25日、つくば市立中央図書館(以下、「市立図書館」という。)と「つくば市域図書館連携に関する協定」を締結するとともに、連携推進の企画検討を目的とした「つくば市域図書館連携協議会」(以下、「連携協議会」という。)を発足させました。

将来的にはつくば市内の他の図書館等の参画をも予定し、各図書館の協働によるつくば市域の活性化を目指すものです。大学図書館と市町村図書館との協定締結は、県内初となります。



附属図書館阿部豊館長(左)と市立図書館柴原徹館長(右)

2. 背景と経緯

つくば市は、広大な土地に様々な研究所や文化施設が設置され、研究学園都市として約40年以上の年月を経て今日に至ります。その間、2005年につくばエクスプレスが開通し、東京近郊からの通勤が容易となるに従い、つくば駅周辺に居住する人口が減少し、2018年1月には商業施設のクレオが撤退するなど、街の賑わいも薄れていきました。

この状況に対し、つくば市では様々な検討が進められ、その一つに、市立図書館を中心とした「つくば市図書館懇話会」において、市民の憩いの場である図書館を用いた街の活性化計画を推進中でした。同時期に本学において、つくば市活性化の取り組みを検討していたこともあり、当館阿部館長がこの活動に賛同し、2018年11月に館長懇談会を実施したことが契機となりました。

その後、同懇話会座長で本学図書館情報メディア系の呑海沙織教授が当館副館長に就任し、2019年5月に改めて館長懇談会を行い、同年7月より両館職員により、連携協力のための意見交換や協定締結と協議会発足等の準備を進めました。

1981年6月の図書館情報大学公開図書室開設から、1990年6月の市立図書館開館に至り、それから約30年の年月の間、市と大学の図書館間の連携は、緊密とは言い難いものでした。しかし、地域への図書館サービスについては、このたび両職員において、研究学園都市としての特徴や市民の図書館への期待へ応えるための合意形成がなされ、ようやく実を結びました。

3. 記念セレモニーとイベントの開催

協定締結と連携協議会発足については、今後の持続可能性と意義を周知する必要があることから、同年11月2日に、つくば市長、副市長、教育長と本学学長を迎え、記念セレモニーとイベント「ライブラリーピクニック」を開催しました。これらは、本学図書館を会場とし、イベントは、日常とは異なる環境での読書や憩いの場としての図書館を楽しみつつ、図書館を介した利用者同士の交流を促すもので、市民ボランティアや本学学生の参加もあり、盛況となりました。また、学園祭前夜祭とも重なり、大学への関心や親近感を深めていただく機会ともなりました。



記念セレモニーでの学長挨拶

4. 今後の展望

2019年度第2回連携協議会では、両館蔵書の相互利用に市民の期待感が大いことや協働イベントの継続、大学図書館の学外者利用の広報が課題として浮き彫りになりました。

今後は、異なる設置母体故の様々な垣根を払拭しながら、互いに歩み寄り、図書館を介したつくば市域の活性化に僅かながらにも貢献することを目指しつつ、本学の学生にとっても有意義な図書館サービスが展開できるよう、持続可能な連携協力を推し進めていく予定です。

(アカデミックサポート課長 村上 康子)



ライブラリーピクニック

2. 次世代学習スペース整備検討～アクセシブルな学術図書館

1. 誰もがアクセスしやすい学術図書館

筑波大学附属図書館におけるサービスの特徴は、市民に生涯学習の場を提供しつつ、図書館ボランティアによる利用者サポートを行っていること、障害のある学生が多く利用していること、留学生が早くから多く学んでいること、休日および平日夜間24時までの時間をセーフティーな有人開館で実施するなど、多様な利用者への対応が求められて、現在に至っています。さらに、これらの利用者の学習スタイルも様々であり、第3期中期目標・中期計画として、検討が進められているところです。

2019年3月に策定したキャッチコピーとロードマップは、本学学生・教職員の意見を反映したものとなり、次世代学習スペースを実現するための広範囲な課題が盛り込まれました。その中でも2019年度においては、それらの初期整備として、本学の理念である「開かれた大学」の下に、ここでの学びを希望する多様な利用者が図書館にアクセスしやすく、誰もが分け隔てなく利用できる環境を整備することに焦点を当てました。入館や館内移動がしやすく、必要な資料やコンテンツが容易に入手でき、施設・設備の場所と用途が分かりやすく、図書館員とのコミュニケーションが行いやすい「アクセシブルな学術図書館」は、利用者にとってストレスのないサービスを促すことが期待されます。



利用者しやすいローカウンター

3つ目は、長時間滞在型利用者(特に夜間)の健康に配慮し便宜を図るため、館内における飲食ルールの拡大検討のための試行を開始したことです。中央図書館では2016年にリフレッシュゾーンを飲食可能としてから、その利用が定着し、2018年6月実施の利用者ニーズアンケートにおいても、学生からのさらなる要望が出ていたところでした。反面、マナー違反や害虫発生、資料汚損等の懸念もあるため、一定期間の試行を行うことで、最終的にルールを確立することとしました。

その他、上記3点の改善に付随し、障害者用ロッカーの設置、芸術系教員の助言による遠近法を用いた館内の什器類の配置、館内職員による新着図書コーナーの有効なディスプレイと資料の再配置など、職員間の熱心な議論も行われました。



移設後の新着図書コーナー

2. 3つの改善

1つ目は、安全なエントランス環境を確保するための図書館入口付近駐輪場の再整備です。広大な大学構内は、自転車による移動が必須ですが、指定区域への駐輪が徹底されない場合、車椅子利用者や視覚障害者の安全が危ぶまれることがあります。そのため、点字ブロック上や車椅子ゾーンへのはみ出し駐輪禁止などのマナー順守を喚起し、空き駐輪場へ促すよう広報しました。また、学園祭時にはカフェテーブルを設置することで、危険な駐輪を自然に意識させ、安全性を高めることも試みました。

2つ目は、館内に分散している各カウンター・デスクを統合再配置することにより、ワンストップサービスを実現するとともに、統合後の空きスペースを利用者のチャットフレームCとして拡大しました。これにより、貸出・返却とレファレンスや相互利用サービスが1カ所で受けられるようになり、新カウンターの向側にボランティアカウンターを配置させ、障害のある利用者のサポートや、新入生等の案内がさらに充実することとなりました。また、新カウンターへの変更は、本学のダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターの教員と学生の意見を取り入れ、ユニバーサルデザイン仕様に改修し、周辺の動線にも配慮した利用者に優しい基礎的環境整備となりました。

3. 基礎的環境整備の上に築く次世代学習スペース

大学図書館としては珍しい全面開架式を今後どのように維持するのか、ICT環境はどこまで充実させる必要があるのか、ラーニングコモンズの次なる役目は何か等々、ロードマップ上には課題が山積しています。図書館を取り巻く環境の変化と多様な利用者のニーズ、図書館職員による見極め、それらが合致したところに、また新たな解決策が見いだされてくることが期待されます。筑波大学附属図書館では、大学の強みを基礎とした確実な図書館サービスの上に、今後さらに、次世代を見据えた多様な図書館サービスを構築して行けるよう検討を進めていく予定です。

(アカデミックサポート課長 村上 康子)

3. 高大連携の取り組み

1. 附属高校への「高大連携図書館サービスパッケージ」

附属図書館は、スーパーグローバルハイスクール指定校の本学附属高等学校および附属坂戸高等学校、ならびにスーパーサイエンスハイスクール指定校の附属駒場中・高等学校に対し、探求学習を中心とした授業や自主学習の支援を行うことを目的に、「高大連携図書館サービスパッケージ」を整備し、2019年1月から運用を開始しました。

高大連携図書館サービスパッケージの内容

- ① 図書資料貸出サービス
- ② レファレンスサービス
- ③ 文献複写サービス
- ④ その他各校のカリキュラムや教育方針に沿ったサービス

同年6月から7月にかけて各校を訪問し、上記サービスの利用状況や、各校のカリキュラムに沿ったサービスについて、ヒアリングを行いました。図書資料の貸出冊数、輸送方法についての具体的な要望が出され、改善に向けて検討を行っています。

また、附属駒場中・高等学校に対して、昨年度に引き続き芸術科シリーズセミナー「メディア虎の穴」の1コマを担当し、CiNiiを利用した論文の検索と入手方法、白書と統計を利用した論拠データの収集方法等について講義を行いました。参加者からは、論文の探し方がよくわかったと好評を得ました。



筑駒セミナー「メディア虎の穴」

2. 「高校横断型ゼミ体験」への協力

2019年7月21日(日)に、人文社会系社会連携推進室が実施する高大連携事業「高校横断型ゼミ体験」において、当日参加の高校生72名、高校教員2名に附属図書館の使い方・文献検索の講義と館内の見学案内を行いました。

高校生からの評判も良く、自分の関心のある資料を実際に収集するためにもう少し時間を長く確保して欲しかったとの声も多く寄せられました。



館内見学

3. 近隣高校への高大連携図書館サービス

竹園高等学校国際科の生徒向けに、2009年度から、探Q(課題研究)のために筑波大学附属図書館の使い方の説明会を実施しています。加えて、今年度は高校からの要望を受け、探Qを指導する教諭向けに文献の探し方講習会を実施しました。



竹園高等学校教諭向けの講習会

さらに、近隣で課題研究を熱心に行っている茗溪学園および並木中等教育学校を訪問し、各校担当教諭と司書にヒアリングを行いました。竹園高等学校も含めた近隣3校から附属図書館への要望を確認し、2020年2月に図書貸出・レファレンス・各校からのニーズに合わせたサービスから成る「高大連携図書館サービス」を整備しました。

今後は連携を進め、サービスの定着を目指していきます。

(アカデミックサポート課主幹 守谷 美佐子)

4. 多様化する支援

筑波大学附属図書館では、図書館の利用に困難のある利用者に対して、アクセシブルな図書館を目指し、様々な支援を行っています。

1. 障害のある利用者への図書館利用支援

障害のある方が来館利用された際には、附属図書館ボランティアを中心とした利用支援を行っています。

ガイドヘルプや車いす補助による図書館内移動支援、書架から資料の取り出しが困難な方への同行、資料の利用や文献複写の補助、視覚障害等により印刷物の資料を読むことが困難な方への対面朗読を行っています。

その他、来館せずに依頼できるサービスもあります。学内文献複写サービス(実費自己負担)や、学外の視覚障害者等用データやDAISY (Digital Accessible Information SYstem)や点字図書等の取り寄せは、web上で申し込むことができます。

また、2019年度は視覚に障害のある学生と、そうした学生を支援するピア・チューターを対象とした図書館講習会を開催しました。図書館の使い方の講義及び拡大読書器等の館内支援機器設置場所の見学、附属図書館ボランティアによる対面朗読の体験をしていただきました。



障害のある学生のための図書館講習会

館内施設の整備では、対面朗読室の1室を車いす使用者の研究個室としても利用できるように整備し、入退館ゲート近くに車いす専用のロッカーを新設しました。ボランティアカウンターを入館ゲート近くに移動し、障害のある利用者が入館する際のサポートが充実しました。

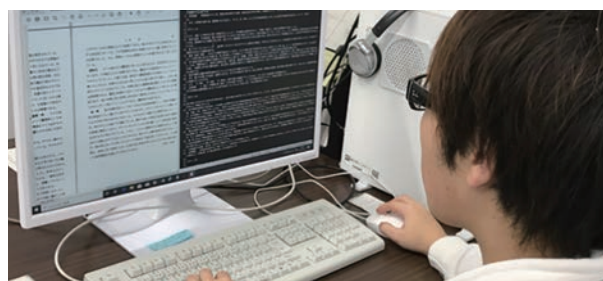
また、障害のある学生への資料電子化サービスを本実施し、PDF26件、テキストデータ15件を提供しました。

2. 視覚障害者等用データの学外への提供

附属図書館では、9月に国立国会図書館と「視覚障害者等用データ及びそのメタデータ」の提供についての覚書を取り交わし、附属図書館とダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが連携して製作した、教科書等のテキストデータの国

立国会図書館への提供を開始しました。

提供したデータは、国立国会図書館の検索サービス「国立国会図書館サーチ」の「障害者向け資料検索」において検索することができます。これにより国立国会図書館が提供する「視覚障害者等用データ送信サービス」を通じて、学外はもとより、世界中の視覚障害やその他の理由で通常の活字の印刷物の読書が困難な方(プリントディスアビリティのある方)も、当館作成のテキストデータをインターネット経由で利用できるようになりました。



障害のある学生への資料電子化 校正作業の様子

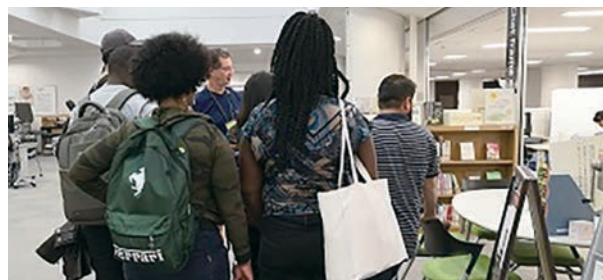
3. 留学生、外国人研究者への図書館利用支援

附属図書館では、留学生や外国人研究者への支援も行っています。

新入留学生を対象に、春と秋に日本語、英語での留学生オリエンテーションを開催しています。図書館の利用方法の講義と附属図書館ボランティアによる館内見学をしています。

また、来館による利用支援の他に、図書館webサイトで様々な情報を提供しています。"Information for New International Students"では、図書館の利用や図書館でよく使われる用語等をまとめています。中央図書館ご案内マップは、日英の他に中国語版を作成し、カウンターに備え付けています。

附属図書館ボランティアによる利用支援、おがみ講習会なども行っています。



留学生オリエンテーションの様子

(多様化支援係長 飯田 貴子)

5.「令和元年度筑波大学附属図書館特別展 ～東京1964と日本文化について考える～」

1. 特別展概要

2019年度の特別展は、「令和元年度筑波大学附属図書館特別展～東京1964と日本文化について考える～」と題して、11月1日(金)から12月6日(金)まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。

今年度の特別展は、附属図書館と体育系との共催により開催し、真田久教授の企画・立案のもと、附属図書館研究開発室プロジェクトの一つとして位置づけ、附属図書館職員9名のワーキンググループが実施にあたる体制で行いました。

日本におけるオリンピックの開催は、幻に終わった1940年東京オリンピック、アジアで最初に開かれた1964年東京オリンピック、そして「東京2020オリンピック・パラリンピックへ」とつながります。本特別展は、日本がどのようにオリンピックを受容し、東京開催を実現しようとしたのかを、附属図書館所蔵の貴重な資料から考えていくもので、本学における「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会参画プログラム」の一つとして開催されたものです。

2. 展示構成

展示は3部構成となっており、第1部「東京オリンピック開催まで」では、1940年、1964年、2020年のオリンピック招致活動に関する資料を展示しました。附属図書館では、東京および日本を紹介するために作成された写真集を複数所蔵しており、特に1935年作成の写真帖『日本』は、美しい内容で好評を博したと言われています。また、躍動感あふれる写真を起用した1964年大会公式ポスターを、4種類すべて展示することでオリンピックの雰囲気を感じていただくことができました。その他、小学校、中学校、高等学校の生徒が、オリンピックの理念を学ぶことができるように配布された、オリンピック読本(1964年)、オリンピック・パラリンピック学習読本(2016年)や、英語で日本文化を紹介する資料『Tourist Library』等、オリンピック開催に向け、様々な情報を発信したことをうかがい知ることができる、見どころ満載な部立てになりました。

第2部「東京オリンピック開催」では、1964年のオリンピック開催中の雑誌記事や芸術展示の資料を展示しました。当時のオリンピック憲章には、オリンピック開催国で芸術展示を行うことが定められています。東京においても、浮世絵、版画、古美術、写真等を紹介する展示に加え、記念歌舞伎公演も行われており、それらの関連図録等を展示しました。また、雑誌でも特集が組まれ、特に『少年サンデー』のオリンピック特集のうち、選手村の様子や、マラソン競技に関する解説記事には、来館者から、当時は懐かしむ声が多く寄せられました。

第3部「東京オリンピック開催後」では開催後の報告書や写真集を展示し、全体では個人蔵の資料も含め47点の貴重資料を公開しました。また、展示室では、東京1964オリンピックの際に国立競技場に掲げられた五輪旗、オリンピックを記念して作成された貯金箱のコレクション、過去のオリンピック公式マスコットなども展示し、好評を博しました。

3. 図録

特別展をより理解していただくために、展示資料の解説を中心とした図録を作成しています。今年度の図録は、第1部～第3部を真田久教授(体育系)、コラムを大林太郎助教(体育系)が執筆し、編集および校正は特別展ワーキンググループが行いました。また、資料の書影については、版元から許諾をいただき図録に掲載しています。多様なテーマで開催される特別展の図録は、会期終了後にも多くの方々に資料として活用されています。

4. 講演会・ギャラリートーク

特別展会期中に、真田久教授・大林太郎助教により開催しました。オリンピック開催のビジョンや、日本でオリンピックが文化として受け入れられた経緯に関する興味深い講演と、展示室でのギャラリートークがあり、本特別展への理解を深めることが出来ました。

特別展開催期間中には、学内外から1,940名が訪れ貴重な資料を観覧しました。

5. 特別展Webページ

展示内容に合わせたWebページを作成し、電子版図録や展示資料の紹介を行うほか、SNSを活用し様々な情報を発信しています。

2019年度筑波大学附属図書館特別展については、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2019/index.html>

(情報企画課主幹(特別展WG主査)

大久保 明美)



6. 大学準公式キャラクター認定！

附属図書館キャラクターとして活躍するがまじゃんぱーとちゅーりっぷさんが2019年9月に大学の準公式キャラクターとして認定されました。活動開始から10年以上が過ぎ、学内はもちろん、全国の大学図書館においても抜群の知名度を持つこのキャラクターのこれまでをふりかえります。

がまじゃんぱーとちゅーりっぷさんは、附属図書館の広報を引き受けるキャラクターです。筑波大学キャンパスの北に位置する筑波山に生息するがま、当館の愛称である「Tulips」をモチーフに考案されました。

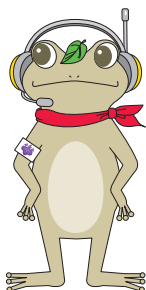
キャラクターのプロフィール

がまじゃんぱー

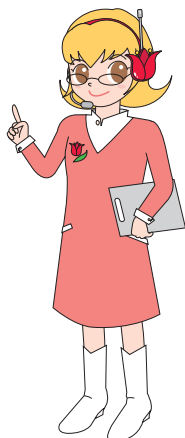
筑波山で修行していましたが、学生になったのを機に下山しました。まだ講義のレポートを書くのにも一苦労ですが、図書館をうまく使って乗り切ろうと考えています。

好奇心旺盛で知りたがりですが、時に早とちりしてちゅーりっぷさんに突っ込まれることも。

出身	大学の中央池
修行の地	筑波山
好きな花	擬宝珠
生態	冬眠はしない。雨が嫌い。
スポーツ	夏は飛び込み、冬はスキージャンプ(特にベア)



ちゅーりっぷさん



遠い星からやってきた、図書館の使い方を分かりやすく解説してくれるお姉さんです。皆さんからの質問をチューリップ型のレシーバーで受信します。

性格は温厚ですが、聞き分けのない人やがまじゃんぱーには、ごくまれに眉間の皺を見せてしまうことがあります。

出身	りぼじとり星
誕生日	4月30日(おうし座)
勤務地	附属図書館
資格	司書・生物分類技能検定(4級)
好物	麦粉菓子

1. 誕生

附属図書館の広報戦略のひとつとして、館内有志を中心とする広報力強化を目指した動きのなかから2006年4月に登場しました。なぜこのコンビであるかについては、プロフィールにあるような立場の異なる2者にする事で多様な角度から図書館の活動が見えるように、また、会話形式での紹介によってコンテンツへの導入を容易にする効果をねらっています。

2. 活動

附属図書館のアイコンとして、図書館案内ビデオやオリエンテーション資料への登場、Facebookでのトピック案内役など、幅広く活動しています。また、2010年には学生の案のもとにがまじゃんぱーが実体化されました。

実体化により活動の幅が広がり、大学内ばかりでなく、学外のイベントへも積極的に登場するようになっていきます。



Tsukuba Global Science Week 2016でのがまじゃんぱー

3. これからのこと

がまじゃんぱーとちゅーりっぷさんは、キャラクターとしての性格付けはあるものの、活動範囲や利用の程度が明文化されておらず、これまでの活動経験がそのままルールとなっている面があります。その結果、がまじゃんぱーの露出がより増え、ちゅーりっぷさんは図書館案内等におけるナビゲーターにとどまる傾向になりました。想定役割ではあるものの、それを越えた活躍をみせるパートナーに負けない存在感を持たせたいところです。

今後はキャラクターの活動に対する根拠となるよう、また大学準公式キャラクターとしての立場も踏まえた活動ガイドラインの整備を進めていく予定です。

(企画渉外係長 船山 桂子)

滝田樗陰旧蔵『近代作家原稿集』

1. 『中央公論』の名編集者・滝田樗陰

附属図書館HPから新たに利用できるようになった、ジャパンナレッジ「Web版日本近代文学館」のコンテンツ『近代作家原稿集』は、雑誌『中央公論』の名編集者として知られる滝田樗陰(たきた ちよいん)が所蔵していた作家等67名の原稿213作を、初出誌面209作とともにデータベース化したものです。遺族から2010年に寄贈されたコレクションを、日本近代文学館が管理・編集し、八木書店によって制作されました。



当館所蔵の『中央公論』
(大正9年3月号)

樗陰こと滝田哲太郎(1882-1925年)は、秋田出身、東京帝大在学中に『中央公論』のアルバイトで翻訳の能力をかわれて編集者となり、1912年、大正元年から編集主幹をつとめた人物です。日露戦後の文壇に自然主義や耽美派といった新しい潮流が現れたのを見逃さず、雑誌に文芸欄設置を提案、これにより廃刊の危機にあった『中央公論』は大幅に部数を伸ばし、近代日本を代表する総合文芸雑誌となりました。夏目漱石や

森鷗外といった大物作家に執筆を依頼し、新人作家にも舞台を与え、樗陰の黒塗り定紋入りの自家用人力車が門前に停まることは、その書き手が将来有望の証とまで言われるほどでした。

2. 文学者たちの大正

『近代作家原稿集』では、有島武郎・稲垣足穂・宇野浩二・宇野千代・小川未明・葛西善蔵・片上伸・金子筑水・上司小剣・川路柳虹・菊池寛・久保田万太郎・久米正雄・堺利彦・佐藤春夫・里見弴・志賀直哉・島木赤彦・相馬御風・谷崎潤一郎・近松秋江・寺田寅彦・徳田秋声・徳富蘇峰・豊島与志雄・長田秀雄・長田幹彦・長与善郎・野上弥生子・長谷川如是閑・日夏耿之介・平塚らいてう・広津和郎・正宗白鳥・宮本百合子・武者小路実篤・室生犀星・若山牧水など、そうそうたる面々の、主に大正期に執筆された原稿の画像を見ることができます。

樗陰は、彼らから原稿を受け取ると、まずは下読みし、ときにはタイトルも提案したといわれます。たとえば、収録原稿点数がひときわ多い文学者に室生犀星がいます。自伝的小説『性に目覚める頃』(1918年)をはじめとする創作や随筆が『中央公論』に掲載されましたが、詩人だった犀星を散文の書き手として育てたのは樗陰だったともいえるでしょう。また、谷崎潤一郎の問題作『異端者の悲しみ』(1917年)の原稿もあり、大正期の文学を考える上で大変貴重なコレクションになっています。

3. 入稿原稿のもつ意味

『近代作家原稿集』には、『中央公論』編集部への入稿用の原稿が主に収録されています。通常、手書きの時代の作家たちは、創作メモや下書き、草稿を作成し、最終的に清書して原稿を完成させ、出版社に入稿します。編集者は、この入稿原稿を下読みし、活字の大きさやレイアウトについての指示を書き込んで印刷所に渡し、印刷所は活字を組んで校正刷りを戻し、さらに編集者はそれをチェックする、という作業を繰り返すことになります。樗陰旧蔵の入稿原稿を見ると、きちんと清書した原稿を送ってくる作家もいれば、締め切りギリギリだったのか、書き直しの多い、推敲跡も夥しい原稿を送ってきた作家もいたようです。このように、雑誌として印刷されてしまうと見えてこない、創作をめぐる数多くの情報(作家たちの執筆の様子や事情、編集者とのやりとりなど)が、入稿原稿からは見えてきます。本データベースの公開によって、文学研究や出版文化研究は、さらに前進することができるはずです。

4. 本データベースの活用の仕方、楽しみ方

1) 原稿を味わってみる

原稿に残る推敲の跡を読むことは、印刷された誌面に隠れた、まさに芸術創作の秘密に触れることだといえるでしょう。また、作家たちの個性的な筆跡を見るだけでも魅力的ですが、使っている筆記具もさまざま、それぞれの執筆スタイルも想像されます。樗陰による注意書きや指示書きにも、ぜひ目をやってみてください。ときにはコメントを書き込んでいて、編集者としての個性的な仕事ぶりが見えてくると思います。

2) 入稿原稿と初出誌とを比べてみる

本データベースは、原稿のみではなく、『中央公論』に掲載された初出の誌面も収録し、本文の対照ができるように工夫が凝らされています。筆跡は、慣れないと読みにくいこともあるので、初出誌に目を通してから原稿を読んでもみるのもいいでしょう。

3) 専門家によるコメントを読んでみる

原稿をより深く読みこむためには、やはり鑑識眼やスキルも必要です。それを知りたいときは、ぜひ原稿ごとに付されている専門家による「原稿解題」を読んでみてください。原稿の特徴や初出誌との違いといった見どころが記されています。

4) 原稿用紙の裏側へ—そして、日本近代文学館へ

ときに、推敲跡が作家自身によって念入りに塗りつぶされているデータ画像があることに気づきます。実はこれ、原稿用紙を裏側から透かしてみると、何かが見えてくることのあるのですが、この最奥の秘密が知りたくなったときは(研究に供する場合限定ではありませんが)、ぜひ日本近代文学館に足を運んでみてほしいと思います。

(人文社会系准教授 馬場 美佳)

1. 他機関視察報告

附属図書館は、図書館内の「次世代学習スペース」の構想・検討を進めています。これに資するため、2019年度に附属図書館職員による、他機関の先進的事例の視察を行いました。視察を行ったのは明治大学和泉図書館と桜美林大学新宿キャンパスです。

1. 明治大学和泉図書館

明治大学和泉図書館は2012年に開館した図書館で、開館時から館内のサイン表示の一部をデジタルサイネージで実施しています。今回の視察では和泉図書館の職員の方に話を伺う事が出来ました。開館から7年が経過した今、開館当初からの図書館サービスのコンセプトの変容や運用の実際、ICT機器の継続的な保守などについて、実際の様子を見ながらお話し頂きました。学習スペースの運用には中長期的な視点が欠かせない事を再確認出来る視察となりました。

2. 桜美林大学新宿キャンパス

桜美林大学新宿キャンパスは2019年度に新しくオープンしたキャンパスです。このキャンパスは全体を通して徹底的なペーパーレス化を実施しており、それは図書館に該当する「ナレッジクラウド」も例外ではありません。この「ナレッジクラウド」には他キャンパスの図書館や相互貸借で一時的に取り寄せたものを除くと紙の資料が存在せず、学生は基本的に電子書籍や電子的コンテンツで学習を進めるというスタイルが取られています。授業に必須の教科書類なども、全て電子書籍として提供されており、その一部は桜美林大学からの出版社への働きかけで電子化が進んだものであるという事でした。「ペーパーレスの図書館」という形を実際に見る事が出来たのは視察した職員にとっては大きな収穫でした。



桜美林大学新宿キャンパス外観

(利用者支援係長 嶋田 晋
デジタルライブラリ担当 松野 渉)

2. 文化庁「図書館等職員著作権実務講習会」への参加

1. 概要

2019年9月10日(火)と11日(水)の二日間にかけて、文化庁主催の図書館等職員著作権実務講習会に参加しました。この講習会は、図書館や美術館などに勤務する職員が実務に必要な著作権に関する知識を修得することを目的として、毎年、関東地区と関西地区の2か所で開催されています。

一日目は、著作権法の全体的な概要と、著作物を適正に利用するために必要な著作権の支分権(複製権、展示権、公衆送信権など)や権利制限の内容について講義を受けました。また、2018年の法改正により、著作権の保護期間が50年から70年に延長されたこと、2019年の法改正で、障がい者向けの資料提供や遠隔授業での著作物の利用などにおける権利制限規定が改正されたことなどの最新情報が紹介されました。

二日目は、具体的な事例を用いた講義が行われました。たとえば、図書館職員が、利用者の求めに応じて図書館資料を一部分コピーし、利用者の自宅FAXに送ることは、著作権者の無許諾でできるでしょうか? コピーについては、著作権法第31条の範囲内であれば著作権者の複製権が制限され、許諾無く複製できます。一方、FAX送信は複製権ではなく公衆送信権が働くので、ほとんどの場合、許諾がないと行えません。このように、実務では1つ1つの行為に対して著作権法の規定と照らし合わせる必要があります。講義では、複製のほか展示や上映をする場合など、実務で直面するさまざまな事例をもとに、著作権の考え方を学びました。

2. 参加を通して

二日間の講義を通して強く感じたのは、急速に変化・成長する社会にあわせて著作権法も変わり続けている、ということです。

たとえば、デジタル化の進展で遠隔授業が浸透しましたが、授業の同時中継先への資料送信は無許諾無償で行えても、予習復習のための資料のメール送信やオンデマンドでの講義動画送信などには、著作権者の許諾が必要でした。それが2019年の法改正で、一定の補償金を支払えば許諾不要で利用できると定められ、2020年4月28日から施行されることになりました。

グローバル化、AIの進出など、めまぐるしく変わる社会情勢の中で、著作権法は、著作物の利用と権利保護の適正なバランスを保つために今後も改正されると思われます。今回の講習会で得られた知識を基盤として、著作権法の動向に常にアンテナを張り、日々の業務に役立てていきたいと思っています。

(参考調査担当 國吉 夏奈子)

4 職員の活動

3. 令和元年度 障害者サービス担当職員向け講座

1. 概要

2019年10月8日から11日にかけて、「令和元年度 障害者サービス担当職員向け講座」が開催されました。これは、NDL(国立国会図書館)と日本図書館協会との共催で、国内の図書館職員等を対象に、図書館における障害者サービスの基礎的な知識および技術の習得を目的とする講座です。NDL関西館での講義パートと、大阪市立中央図書館等の各実習協力機関での実習パートから構成され、毎年秋頃に開催されています。

昨年度までは定員が30名だったのですが、今年度から講義パートのみ60名に増員されました。これは、2016年の障害者差別解消法施行、2018年のマラケシュ条約締結や、2019年の読書バリアフリー法施行等の影響を受け、障害者サービスを提供する図書館が増えたということかもしれません。

私は10月8日と9日に行われた講義パートに参加しました。

2. プログラム内容

障害や障害者サービスについて全般的な内容の「障害者サービスと障害者差別解消法」に始まり、「障害者向け機器の紹介」では、掲示物のフォント、ピクトグラム活用、読書支援機器の導入等といった、今からでも図書館で実践できそうなものや、最新の機器紹介等がありました。

「知的障害者に対するサービス」と「発達障害者に対するサービス」では、知的障害や発達障害は見た目では分からないことも多く、ニーズも顕在化しにくいと、誰もが利用しやすい環境づくり(ユニバーサルデザイン)が重要ということです。

「障害者サービス用資料」、「著作権法と障害者サービス」や「国立国会図書館の障害者図書館協力サービス」では、障害者向け資料の種類、実際の入手方法、点訳やテキスト化の根拠となる著作権法第37条や関連法規、NDLのサービス等についてご紹介いただき、理解が深まりました。

「視覚障害者へのサービス」や「聴覚障害者へのサービス」では、視覚や聴覚に障害を持ちながら働く図書館職員の方々が講義をして下さり、「要件も聞かず窓口で見た途端『障害者サービス担当をお呼びします』は差別」、「特別扱いして欲しい訳ではなく、一般利用者と同様に図書館を利用したいだけ」という言葉が強く印象に残りました。

この障害者サービス担当職員向け講座に参加したことで多くの知見を得られたとともに、当館の課題もいくつか見えてきました。講座で学んだことを反映させ、当館における障害者サービスの拡充を進めていきたいと思っています。

(多様化支援担当 塩澤 美咲)

4. 「第17回 日本古典籍講習会」受講報告

1. 日本の古典籍を守り伝えるために

2019年7月2日~5日に、「第17回日本古典籍講習会」を受講させていただきました。国文学研究資料館と国立国会図書館が主催するこの講習会は、日本の古典籍の整理・目録化を促進し、また古典籍の利用環境整備を図るため、現在古典籍を扱う業務を担当している職員を対象に、書誌学の知識や資料取扱い技術に関する講義・実習を行うものです。日本の江戸時代末期以前に製作・出版された資料は、現代の出版物とは、形態や特性、閲覧時の取扱いや保管方法等に大きな違いがあります。2019年度4月から当館古典資料担当に配属された私にとって、専門知識を習得することは急務であり、今回この講習会に参加できたのは大変幸運なことでした。

2. 古典籍に関する実践的な講義・実習

講習会は、国文学研究資料館(立川市)と国立国会図書館東京本館(千代田区)の2ヶ所で行われました。全国の図書館・博物館から集まった約30名の受講者は、古典籍の定義、文字(くすし字)、料紙や装丁を含む資料形態の種類と特徴、江戸時代の出版文化や古典籍データベースの現状について等、多岐にわたる講義を受けました。その内容は「見て、触れて、知る」といったもので、古典籍の知識がほぼゼロからでもわかるように、各分野の専門家である講師陣が資料を実際に手に取り紹介しながら解説するという、とても実践的なものでした。また、江戸時代の版本を使った目録データの作成や書庫見学、資料の簡易補修等、日常業務ですぐに役立つ実習も多く含まれていました。特に、資料の製作・出版状況を知る上で重要な「奥書」や「刊記」に関する知識や、冊子本の綴じ糸ほつれに対して行う「綴じ直し」技術は、講習会直後から大いに役立っています。講師の方々や受講者同士の情報交換も含め、大変有意義な4日間でした。



冊子本の綴じ直し(四つ目綴じ)

(古典資料係長 波邊 朋子)

5. 国立情報学研究所「大学図書館員のためのIT総合研修」への参加

2019年9月18日から20日にかけて、国立情報学研究所(以下、NII)主催の「大学図書館員のためのIT総合研修」へ参加しました。この研修は大学図書館等がサービスを提供する上で必要なIT技術の理解を深めることを目的としたもので、今回のテーマは「学術情報システムを支えるデータベースの理解と実践」です。

1. 講義について

研修は講義と実習で構成されていました。講義はIT技術と図書館業務の基本的な関わりと、その中でも今回のテーマにも設定されていたデータベース(以下、DB)の基本的な知識に関する内容で、東京大学の大向一輝准教授が講師を務められました。この研修では、受講の前提となる知識・技術について特に定められておらず、事前課題についても特に課されませんでしたので、受講生の間のIT技術に関する理解・知識には様々な段階がありましたが、大向先生の講義は「入門編」と捉えても分かりやすく、かつある程度の経験がある受講生も興味深く聞けるよう工夫がなされたものとなっていました。

2. 実習について

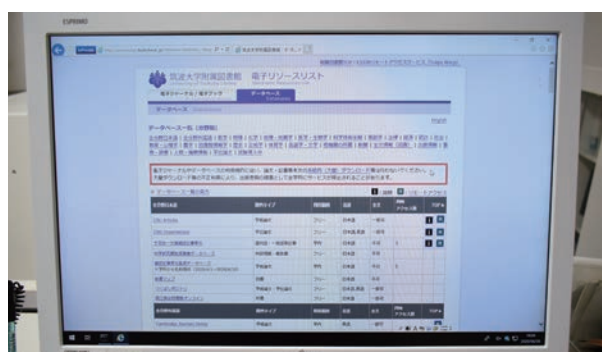
実習については、講義の内容を基礎としながらも、より実践的なDBの設計や構築をグループワーク形式で学んでいくものでした。一般的に、今日の図書館業務においてDBの存在は不可欠ですが、実際にDBそのものを自ら設計・構築する機会は少なく、実習の開始当初は受講生の間に戸惑いも見られましたが、グループワークの中で次第に受講生同士の協力が進み、最終日の成果物の発表会ではどのグループも大変興味深く、かつ見応えのある発表を行っていました。

また、構築中のDBが思ったように動かないなど、作業中に壁に突き当たる事もありましたが、研修では大向先生や指導役として参加されていた東京大学・NIIの職員の方の適切なサポートを受ける体制が整っていました。

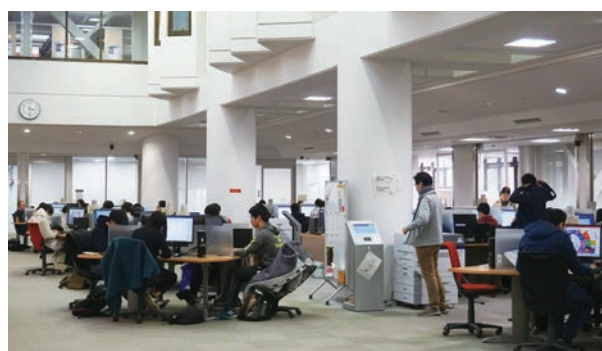
3. 研修に参加して

筆者はデジタルライブラリ担当として図書館システムに関する業務に携わっていますが、今回の研修は学ぶ所が多く、大変良い経験となりました。研修はテーマを変え今後も続くとの事ですが、長く続く研修になる事を願ってやみません。最後に今回の研修でお世話になった皆様や、送り出してくださった附属図書館の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

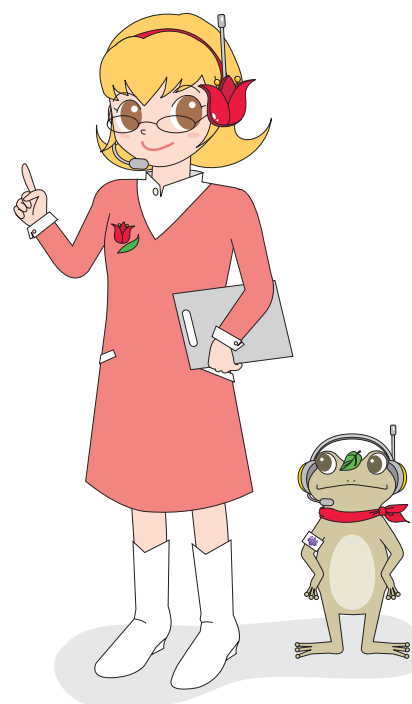
(デジタルライブラリ担当 松野 渉)



筑波大学附属図書館データベース



全学計算機利用状況



4 職員の活動

6. 論文発表

当館職員の論文執筆の活動記録です。

田村香代子. 試行錯誤する習得過程(図書館司書お薦めの一冊). 茨城新聞. 2019-6-16付9面

概要：
広瀬友紀著『ちいさい言語学者の冒険』の書評。

嶋田晋, 高橋雅一, 松野涉. Tulips Searchの軌跡：筑波大学附属図書館2019年システム更新の白眉. 図書館雑誌. 2019, vol.113, no.7, p.438-439

松野涉. 動向レビュー:岐路に立つ査読と、その変化に踏み込む Publons. カレントアウェアネス. 2019, no.341, p.15-19

[カレントアウェアネス](https://current.ndl.go.jp/ca1961)

<https://current.ndl.go.jp/ca1961>

西彩花. 主体的な情報の使い方(図書館司書お薦めの一冊). 茨城新聞. 2020-3-1付9面

概要：
加藤秀俊著『取材学：探求の技法』の書評。

田村香代子, 船山桂子. 大学図書館職員長期研修の近況 -2006年度から2019年度の動向を中心に-. 大学図書館研究. 2020, vol.114, p.2063-1 - 2063-7

論文要旨：
2019(令和元)年度に第51回を迎えた大学図書館職員長期研修について、2006年度以降の動向を、研修目的、受講資格・受講生、講義内容の観点から整理し、中でも「演習・班別討議」の内容について詳述するとともに、今後の課題についても論じる。

[J-STAGE](https://doi.org/10.20722/jcul.2063)

<https://doi.org/10.20722/jcul.2063>

田村香代子. 編集後記. 大学図書館研究. 2020, vol.114, p.2066-1

[J-STAGE](https://doi.org/10.20722/jcul.2066)

<https://doi.org/10.20722/jcul.2066>

7. 職員研修会

2019年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計4回行いました。

日 時 ・ 場 所		参加人数
テーマ	講師・発表者	
2019.4.16 集会室		部内10名 全体83名
修復完成記念特別公開「筑波大学の至宝 狩野探幽の屏風絵」修理完了報告会	池田和彦(株式会社修護 代表取締役)	
2019.9.6 新館2階会議室		20名
インターンシップ成果報告・情報交換会	鈴木敦也(知識情報 図書館学類3年)	
2019.12.3 集会室		17名
図書館総合展 参加報告会	藺部明子(参考調査担当)、松野涉(デジタルライブラリ担当)、 藤田祥子(リポジトリ担当)、渡邊朋子(古典資料担当)、 西彩花(学習支援担当)、大和田康代(学習支援担当)	
2020.2.27 集会室		20名
2019年度附属図書館研究開発室 研究成果報告会	研究開発室室員および協力者	

1. サービス・活動

日 付	内 容
2019.4.1	茨城県図書館情報ネットワーク物流搬送システムへ参加
2019.4.1	本学教員の文献複写等に係る料金の全学共通経費化を本実施
2019.4.1	障害のある利用者への資料電子化サービスを正式開始
2019.7.12～2019.8.9	図書館経費購入データベースの見直しのためのアンケートを実施
2019.8.20～2019.9.30	(中央図書館) 新館 2 階マイクロ資料室の空調工事
2019.9	American Indian Histories and Cultures データベース等の購入
2019.9.9	台風 15 号接近のため 11:00 まで臨時閉館
2019.9.17	国立国会図書館と、視覚障害者等用データ収集・提供サービスにおけるデータ提供館としての「覚書」を締結
2019.9.25	つくば市立中央図書館と「つくば市域図書館連携に関する協定書」を締結
2019.10.12	台風 19 号接近のため臨時閉館
2019.10.13	台風 19 号接近のため筑波キャンパスの図書館は 12:00 以降、大塚図書館は全日臨時閉館
2019.11.2	「つくば市域図書館連携に関する協定書」締結を記念し、セレモニー及び連携事業「ライブラリーピクニック in 筑波大学附属図書館」を開催
2019.12.10～2020.1.31	電子ジャーナル等の整備方針検討のためのアンケートを実施
2020.2.3	(中央図書館) 飲食スペースの拡大試行開始
2020.2.27	附属図書館研究開発室研究成果報告会を開催
2020.3	Springer 社電子ブック他、コレクションを拡充
2020.3.5	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学外者の利用制限およびセミナー室等施設の利用制限開始
2020.3.12	学外者の利用制限に伴い、学外者貸出利用証の新規発行・更新の申込み受付を停止
2020.3.16～3.18	(中央図書館) メインカウンター改修工事のため臨時閉館
2020.3.19	(中央図書館) メインカウンターとレファレンスデスクを統合した新カウンターでサービスを開始
2020.3.24	竹園高等学校・並木中等教育学校・茗溪学園中学校高等学校に対し「高大連携図書館サービス」(図書資料貸出・レファレンス・その他各校のカリキュラムや教育方針等による個別サービス)を提供開始
2020.3.28～3.29	(大塚図書館) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時閉館

2. イベント・セミナー・授業

日 付	内 容	主 催	場 所
2019.4.24～1.29	哲学カフェ *毎月第4水曜日(1月のみ第5水曜日、8月・9月は休止)に計8回開催	筑波大学人文社会系哲学・思想専攻	チャットフレームB/C
2019.4.25	日本一早い科研費セミナー	URA研究戦略推進室	集会室
2019.5.22	Discovering Science Communication (in Australia)	生命環境学群生物学類	チャットフレームC
2019.6.13/11.20/2020.2.13	おりがみ講習会: Origami Workshop	附属図書館ボランティア	チャットフレームC
2019.6.21	YOGA -TALK & EXERCISE 2019-	Randeep RAKWAL (体育系) / 講師: 高橋玄朴	体育・芸術図書館 ラーニングコモンズ「ユーリカ」
2019.6.22	スポーツに物申す!! ～スポーツが絡む問題について考えよう～	ADD JUST (T-ACT承認企画)	チャットフレームC
2019.7.4/7.8/7.18	GLOBAL CHAT <English>	グローバル・コモンズ機構	チャットフレームC
2019.7.10	GLOBAL CHAT <Culture>	グローバル・コモンズ機構	チャットフレームC
2019.7.11～12	中古の教科書を回収する	STUDY FOR TWO	チャットフレームB
2019.8.2	短期留学生向け授業 「プロジェクトワーク日本語」 留学生制作短編ビデオ発表会	担当教員 関口美緒 (グローバルコミュニケーション教育センター)	チャットフレームC
2019.10.1～12.16	大学院共通科目授業 「ザ・プレゼンテーション」全 12 回	担当教員 野村港二(生命環境系)	チャットフレームC
2019.10.9	全国ビブリオバトル 2019 筑波大学地区予選	図書館情報メディア研究科学生	図書館情報学図書館 コミュニケーションスペース
2019.11.2	ライブラリー・ピクニック	学術情報部アカデミックサポート課 情報企画課(共催:つくば市立中央図書館)	駐車場

トピックス

日 付	内 容	主 催	場 所
2019.11.3～11.4	雙峰祭（筑波大学学園祭）企画 「近未来図書館ディケイド」	図書館情報メディア系宇陀・松村研究室、 附属図書館、ストーリーテリング研究会有志	集会室
2019.11.9	ダイバーシティセミナー III 「Visualize Your Research ー新たな研究連携の可能性を探る視覚的対話法ー」	ダイバーシティ・アクセシビリティ・ キャリアセンター (共催:URA研究戦略推進室)	チャットフレームC
2019.11.22	Nature Masterclasses Online Courses 受講希望者向け説明会	URA研究戦略推進室	チャットフレームC
2019.12.10	ピクトグリンピック（図書館情報学メディア 研究科前期課程科目「テクニカルコミュニ ケーション」グループワーク）	担当教員 三波千穂美 (図書館情報メディア系)	エントランス
2019.12.20	ORCID 説明会	研究推進部・学術情報部	大学会館
2020.1.6	トビタテ留学 JAPAN 日本代表プログラム 12 期・13 期個別相談会	教育学類学生(トビタテ!留学JAPAN 筑波大学7代目ブランドマネージャー)	チャットフレームC
2020.1.31	プロジェクトワーク日本語 ビデオ発表会	担当教員 関口美緒(グローバル コミュニケーション教育センター)	チャットフレームC
2020.2.10	2019 BEST FACULTY MEMBER 表彰式	企画評価室	チャットフレームC
2020.2.10～2.14	中古の教科書を回収する	STUDY FOR TWO	チャットフレームC

※「5. オリエンテーション・講習会」に掲載のものは除きます。 場所は、特記したものの以外は中央図書館での開催です。

3. 展示

日 付	内 容	主 催
中央図書館 展示		
2019.4.2～4.24	平成 31 年度 修復完成記念特別公開 「筑波大学の至宝 狩野探幽の屏風絵」	附属図書館
2019.4.8～5.8	美術サークル図画団 新歓作品展	美術サークル図画団
2019.4.19～4.24	筑波大学写真部新入生歓迎写真展	筑波大学写真部
2019.4.26～5.24	附属学校ポスター展	附属学校教育局
2019.5.22～5.31	Discovering Science Communication (in Australia)	生命環境学群生物学類
2019.5.27～7.22	【筑波大・百人論文】 Researcher Blind Date Project - Meet your potential collaborator!	URA 研究戦略推進室
2019.5.27～6.9	第 17 回チャリティーフットサル大会の紹介	WorldFut TSUKUBA
2019.6.10～6.14	Phillipine Independence Day Celebration	Association of Filipino Scholars in Tsukuba
2019.6.17～6.24	筑波大学写真部 2019 年度新人展	筑波大学写真部
2019.7.8～7.19	勝手にサテライト・アルスエレクトロニカ	図書館情報メディア研究科学生
2019.7.22～8.2	大学における環境問題と持続可能性	Echo UT
2019.7.26～8.9	日本にいる難民の現状	CLOVER ～難民と共に歩むユース団体～
2019.8.5～8.9	Independence Day of Peru	教育研究科学生
2019.10.1～11.11	現役大学院生がおくる あなたのまだ見ぬ大学院の世界 【だから私たちは大学院生になった!】	附属図書館ラーニング・アドバイザー
2019.10.8～10.18	僕らの夏休み Project 活動&秋入会のお知らせ	僕らの夏休み Project
2019.10.21～10.27	オープンアクセスおよびリポジトリに関するポスター展示 (Open Access Week 2019)	附属図書館（情報企画課リポジトリ担当）
2019.11.1～12.6	「令和元年度附属図書館特別展 ～東京 1964 と日本文化について考える～」	附属図書館、体育系
2019.11.1～11.29	学生団体 C4 の活動	学生団体 C4
2019.11.1～11.18/ 11.25～12.2	この夏派遣されたインドネシアでの活動内容に ついての報告	海外建築ボランティアサークル LUZ
2019.12.3～12.26	WorldFutTSUKUBA の学内活動の報告	WorldFut TSUKUBA
2019.12.16～12.20	BOOK FAIR! : Diversity Week 2019	附属図書館（多様化支援担当）
2019.12.16～12.20	セクシャルマイノリティ写真展 「OUT IN JAPAN @ 筑波大学」	ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
2020.1.10～1.31	世界の環境問題	Echo UT
2020.1.21～2.3	写真部「冬」写真展	筑波大学写真部

体芸図書館イベント YOGA -TALK & EXERCISE 2019-

日 付	内 容	主 催
体育・芸術図書館 展示		
2019.1.7～5.31	〔壁面マスキングテープアート〕 線の構成	芸術専門学群学生、上浦佑太（芸術系）
2019.4.19～5.7	アンチ・ドーピングとは何か？	渡部厚一（体育系）
2019.5.13～9.30	糸による半立体表現	芸術専門学群学生、上浦佑太（芸術系）
2019.9.20～11.4	ワールドカップ代表選手の原点	附属図書館
2019.10.1～2020.3.31	〔壁面マスキングテープアート〕 線の構成	芸術専門学群学生、上浦佑太（芸術系）
2019.10.2～2020.3.31	箔の腐食による表現	芸術専門学群学生、上浦佑太（芸術系）
2019.12.27～2020.1.24	初代王者の帰還 26年ぶりの箱根路への挑戦	附属図書館
医学図書館 展示		
2019.4.19～5.7	アンチ・ドーピングとは何か？	渡部厚一（体育系）
図書館情報学図書館 展示		
2019.5.20～6.26	江戸の小物デザイン画集	附属図書館（図情図書館）／ 共催：図書館情報メディア系綿抜研究室
2019.8.1～9.27	神話の里と連歌 石岡市立中央図書館創立 130 周年記念企画	附属図書館（図情図書館）／ 共催：石岡市立中央図書館
2019.11.1～12.26	江戸の Advertisings 江戸絵を楽しむ	附属図書館（図情図書館）／ 共催：図書館情報メディア系綿抜研究室

4.見学・来訪者

日 付	内 容
2019.4.4	マレーシア ペラ州知事一行 15 名
2019.4.17	国立台湾大学職員 1 名
2019.5.14	フランス ボルドー大学職員 1 名
2019.5.29	ハワイ大学院生 1 名
2019.6.12	上海大学副学長一行 6 名
2019.7.4	オハイオ州立大学教員 2 名
2019.7.9	台湾 台北教育大学教員 32 名
2019.7.16	タイ Bansomdejchaopraya Rajabhat University 10 名
2019.8.5	マレーシア マラ工科大学 教員、学生 13 名
2019.10.16	内閣府 国際社会青年育成事業での外国青年日本招へいグループ 34 名
2019.10.31	フィリピン セントラルルゾン大学 副学長、教職員、学生 10 名
2019.11.7	インドネシア ビナ・ヌサンタラ大学教員 1 名
2019.12.12	中国障害者連合会 11 名
2019.12.12	さくらサイエンスプラン招聘者（日本・アジア青少年サイエンス交流事業） 13 名

※全90件(11,952名)から抜粋したものです。

5.オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群生)	6回	2,943名
新入大学院生オリエンテーション(院生)	8回	308名
留学生オリエンテーション	8回	95名
新任教員オリエンテーション	2回	17名
職員オリエンテーション	1回	115名
論文の探し方講習会	35回	281名
自由テーマオリエンテーション	20回	143名
科目関連指導	49回	2,793名
フレッシュマン・セミナー(各学類等)	33回	1,954名
授業「研究方法概論」文献検索の方法	1回	81名
授業「看護学研究法」春学期2コマ分を担当	2回	33名
知識情報特論III「文献の検索から入手まで」春学期1コマ分を担当	1回	118名
「文献管理ツールRefWorks活用法」	1回	118名
カウンセリングコース向け講習会	2回	48名
リハビリテーションコース向け講習会	2回	48名
経営システム科学専攻講習会	1回	26名
授業「知の探検法」秋学期11コマ分を担当	6回	367名
その他	4回	132名

日 付	内 容	講 師	参加者数
ライティング支援連続セミナー 研究者入門：自分を守る情報リテラシー			
2019.4.18	良い論文を書くには	逸村裕（図書館情報メディア系）	17 名
2019.4.25	論文投稿の基礎：ハゲタカ出版社 (Predatory Publisher) に気をつけて		13 名
ライティング支援連続セミナー 差がつく!レポート攻略術			
2019.5.8	文書の目的を理解する：レポート vs 論文 付：引用入門	三波千穂美（図書館情報メディア系）	20 名
2019.5.15	文章を構成する		13 名
2019.5.22	論理的に書く	田川拓海（人文社会系）	8 名
2019.5.29	レポートのコツ：図表の表現	野村港二（生命環境系）	10 名
2019.6.5	レポートのコツ：「事実」と「意見」を区別する		9 名
2019.6.12	最終回：さあ、「良いレポート」を書こう!	五十嵐沙千子（人文社会系）	11 名
LA(ラーニング・アドバイザー)セミナー			
2019.10.9	棚から論文!?悩める学群生や修士院生への 論文セミナー "How to write a thesis"	木南優希、畑佳恵、鈴木修斗、小牧寛司 (附属図書館ラーニング・アドバイザー)	24 名
その他の研究・学習支援企画			
2019.6.18	著作権法の一部改正に係る説明会（第 2 回）	和知剛（郡山女子大学短期大学部講師）、 石島寿道（一般社団法人 学術著作権協会事務局長）	114 名
2019.9.14			
2019.10.9	セミナー「博士論文インターネット公表の基礎知識」	中原由美子（大塚図書館）	31 名
2019.10.10		佐藤まみ子、藤田祥子（リポジトリ担当）	24 名 14 名
2019.12.13	令和元年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH） 「メディア虎の穴」 第 4 回 学術情報の探し方 (筑波大学附属駒場中・高等学校)	大和田康代（学習支援担当）	21 名

6.研修・シンポジウム

日 付	内 容
2019.7.1~7.13	平成 30 年度大学図書館職員長期研修 (受講生 32 名)
2019.7.30/8.1/8.2/12.13	職場体験 (つくば市内中学校 4 校 13 名)
2019.8.26~9.6	インターンシップ (筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 1 名)
2020.2.13	インターンシップ (釜山大学校 5 名、ロシア国立大学 2 名)

7.会議

日 付	内 容
2019.5.21/11.11/2020.2.17	次世代学習スペース整備検討タスクフォース
2019.5.21	附属図書館リスクマネジメント専門委員会
2019.5.23/2020.3.24	附属図書館研究開発室運営会議
2019.5.30/7.25/9.18/11.25	附属図書館運営委員会
2019.6.10/9.6/11.13/2020.2.12	附属図書館収書専門委員会
2019.7.4/10.30	附属図書館ボランティア専門委員会
2019.7.9/9.10/10.8/11.18/12.10/2020.2.12/3.10	筑波大学附属図書館将来構想検討タスクフォース
2019.7.25	附属図書館オープンアクセス専門委員会

8.研究開発室

プロジェクト名	担当室員 / 協力者
1. ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討	逸村裕 (図書館情報メディア系)、野村港二 (生命環境系)、島田康行 (人文社会系) / 三波千穂美 (図書館情報メディア系)、五十嵐沙千子 (人文社会系)、田川拓海 (人文社会系)、学習支援推進WG (学術情報部)
2. 情報探索行動の分析	逸村裕 (図書館情報メディア系) / 村田龍太郎 (図書館情報メディア研究科)
3. 図書館への応用可能性を調べるクラウドソーシング実証実験	森嶋厚行 (図書館情報メディア系)、宇陀則彦 (図書館情報メディア系) / 原田隆史 (同志社大学)、池田光雪 (愛知淑徳大学)、鶴尾厚佑 (情報メディア創成学類)、泉陽奈子 (情報メディア創成学類)、利用者支援担当 (学術情報部)
4. 附属図書館における貴重資料の保存と公開	
① 収蔵保管箱の保存状態とその環境特性の調査	松井敏也 (芸術系) / 渡邊朋子 (学術情報部)、篠塚富士男 (國學院大學 栃木短期大学)、久我昌江 (人間総合科学研究科)
② 附属図書館における貴重書・和装古書の公開と基礎的研究	山澤学 (人文社会系)、谷口孝介 (人文社会系) / 特別展WG (学術情報部)
5. 附属図書館の将来構想の検討	鈴木秀樹 (学術情報部)、谷口孝介 (人文社会系)、逸村裕 (図書館情報メディア系)、宇陀則彦 (図書館情報メディア系)、呑海沙織 (図書館情報メディア系) / 学習支援推進WG (学術情報部)、将来構想検討タスクフォース (学術情報部)
6. 図書のロバスト性評価法の確立	江前敏晴 (生命環境系)、逸村裕 (図書館情報メディア系) / 望月有希子 (生命環境系)
7. 利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討	高久雅生 (図書館情報メディア系)、宇陀則彦 (図書館情報メディア系)、鈴木秀樹 (学術情報部) / 大久保明美、後宮優子、高橋雅一、松野渉、嶋田晋 (学術情報部)
8. 図書館での音響効果調査	逸村裕 (図書館情報メディア系)、善甫啓一 (システム情報系) / 寺澤洋子 (図書館情報メディア系)

6 メディアにみる 附属図書館

1. 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日 付	掲載元	メディア	掲載内容
2019.4.15～4.21	ウィークリーACCS	テレビ	ニュース 修復完成記念特別公開「筑波大学の至宝 狩野探幽の屏風絵」
2019.4.14	読売新聞 [地域面]	新聞	筑波大で発見 探幽の屏風を展示
2019.4.19	読売新聞 [地域面]	新聞	「令和」あやかり命名や展示 ※小特集「日本の元号」展示での『万葉和歌集校異』を紹介
2019.5.15	文教速報	雑誌	筑波大図書館「狩野探幽の屏風絵」を特別公開
2019.5.20	文教ニュース	雑誌	筑波大学附属図書館「狩野探幽の屏風絵」特別公開
2019.5.27	筑波大学新聞	新聞	探幽の屏風 よみがえる
2019.7	TSUKU COMM	雑誌	附属図書館「筑波大学の至宝 狩野探幽の屏風絵」
2019.7.29	文教ニュース	雑誌	＝筑波大学＝ 平成30年度大学図書館職員長期研修
2019.7.31	文教速報	雑誌	大学図書館職員長期研修を開催(筑波大)
2019.9.20	読売新聞 [地域面]	新聞	筑波大学体育・芸術図書館「深々」遠藤章子 ※芸術専門学群卒業制作作品の展示を紹介
2019.9.21	常陽リビング	新聞	石岡書籍館の蔵書 ※図書館情報学図書館展示「神話の里と連歌」を紹介
2019.10.18	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学附属図書館、「令和元年度附属図書館特別展 ～東京1964と日本文化について考える～」を開催
2019.10.22	茨城新聞 [地域面]	新聞	つくば市と筑波大 図書館が連携協定
2019.10.23	カレントアウェアネス-R	web	つくば市立中央図書館(茨城県)と筑波大学附属図書館、図書館サービス拡充 に関する連携協定を締結:大学図書館と自治体図書館の連携協定締結は茨城県内で初めて
2019.11.1	筑波大学新聞	新聞	東京五輪招致の資料展示
2019.11.7	読売新聞 [地域面]	新聞	前回東京五輪 資料で回顧
2019.11.16	朝日新聞デジタル「論座」	Web	『いだてん』田畑はヒトラーと会ったのか?
2019.11.18～24	ウィークリーACCS	テレビ	筑波大学附属図書館特別展「東京1964と日本文化について考える」開催
2019.12	紫峰の風	雑誌	筑波大生の図書館
2019.12.1	知識情報・図書館学類誌 MILK	雑誌	としょかん探訪記 リターンズ 筑波大学大塚図書館
2020.1	TSUKU COMM	雑誌	令和元年度附属図書館特別展「東京1964と日本文化について考える」
2020.1	ふみ	雑誌	こんな古典籍があった!～拠点大学古典籍画像紹介～ 筑波大学附属図書館所蔵『貞享暦』茨川春海(著)安倍泰福(校)、書写年不明
2020.1.6	文教ニュース	雑誌	筑波大学附属図書館 特別展 「東京1964と日本文化」
2020.1.15	文教速報	雑誌	筑波大図書館が特別展 東京1964と日本文化について考える
2020.1.27	筑波大学新聞	新聞	研究内容をピクトグラムに ※当館が会場となったイベント「ピクトグリンピック」を紹介

2.筑波大学附属図書館の刊行物

附属図書館年報2018年度

筑波大学附属図書館研究開発室年次報告2018

令和元年度筑波大学附属図書館特別展～東京1964と日本文化について考える～(図録)

Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)

No.100 Prism 10周年&100号

No.101 中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2019

No.102 2019年度LA企画
現役大学院生がおくる あなたのまだ見ぬ大学院の世界
【だから私たちは大学院生になった!】

No.103 棚から論文!? 悩める学群生や修士院生への論文セミナー
"How to write a thesis"

No.104 中央図書館内 飲食マナーアップ★キャンペーン



Prism No.100 「Prism 10周年&100号」(2019.5.31)



Prism No.104 「中央図書館内 マナーアップ★キャンペーン」(2020.3.3)

6 メディアにみる 附属図書館

3.出版・放映・Web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2019.4.15	出版	一般図書	神戸区教育沿革史	ホ240-206	10076043880	山本哲 " 頓野私立山口測候所 頓野キヨ・田邊タミ-最初の女性会員をたずねて " (天気 7月号)
2019.5.14	出版	貴重書	野外奏楽、猿曳図 (修復後)	721.4-Ka58	10103015099 10103015100	荏開津通彦 " 中世絵画における猿曳の図様をめぐる " (鹿島美術研究 2018)
2019.5.17	出版	和装古書	江戸名所記 巻4	ネ306-148	10076904081	福澤徹三著『花火』(法政大学出版局)
2019.5.30	動画作成・放映	和装古書	臺灣教科用書國民讀本 3	ヘ900-宮197	10088013916	テレビ東京「池上彰の現代史を歩く」(5月26日放映)
2019.7.10	出版	和装古書	浪華往古圖	ネ040-597	10076904336	『大阪の教科書 上級編』(創元社)
2019.7.11	出版	和装古書	孝子幸之助傳	タ500-180	10076860012	特別展「越中富山の本屋さん-江戸時代の書籍文化を探る-」展示パネル・図録 (富山市郷土博物館)
2019.7.26	出版	和装古書	本化別頭佛祖統紀 巻11 他1点	タ400-128 他	10076857529 他	特別展「中世寺院と品川-妙国寺の歴史と寺宝-」図録 (品川区立品川歴史館)
2019.7.29	出版	貴重書	伊曾保物語 上	ル150-1	10076700090	特別展「交流の軌跡-初期洋風画から輸出漆器まで」展示パネル・図録 (中之島雪雪美術館)
2019.9.12	出版	一般図書	人権新説 他2点	ウ000-57 他	10076055980 他	田中友香理著『＜優勝劣敗＞と明治国家-加藤弘之の社会進化論』(ぺりかん社)
2019.10.21	出版	和装古書	女子教育出世雙六: 教育児童出世雙六	ヘ950-宮219	10088015216	高等学校『歴史総合』(高等学校地理歴史科 検定教科書)
2019.11.19	出版	大型	日本	210.7-N77	10014013828	朝日新聞デジタル 関連サイト『論座』
2019.12.27	出版	和装古書	信長記 巻之1上 他8点	エ380-113 他	10076852331 他	テーマ展『中世下野の歴史物語の世界-「玉藻前草子」と幸若舞曲「信田」-』展示パネル・リーフレット (栃木県立博物館)
2019.12.27	出版	貴重書	北野社家日記: 天正十九年自 閏正月至三月	北野社	10003015182	熊倉功夫、井上治著『茶と花』(山川出版社)
2020.1.6	出版	貴重書	新古今和歌集 上	ル210-77	10076713906	『新編 史料日本史』(東京法令出版)

※全51件から抜粋したものです。

附属図書館 ボランティアの活動

新しいボランティアカウンター

1. 2019 年度ボランティア構成

●男性：8 ●女性：34 計 42 名

〈年齢内訳〉

●40代：2 ●50代：5

●60代：21 ●70代：13 ●80代：1

●新規活動者 4 名 ●更新活動者 38 名

2. 活動統計

1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 1,003 人

(学内者：837 人 学外者：166 人)

●図書館見学案内 55 件 2,944 人

●対面朗読 183 時間

2 利用環境整備

●シェルフリーディング書架数 2,517 連

●ラベル補修 420 冊

●図書修理冊数 1,314 冊

(中央図書館：975 冊 体芸図書館：339 冊)

3 体芸図書館ポスター整理 276 枚

3. 年間行事

1 フォローアップ研修

●学内施設見学(運動障害学生支援・準備室、視覚障害学生支援・準備室) 7 月

障害のある学生が学習や静養場所として利用したり、障害のある学生を支援するピア・チューターが活動する施設を見学しました。支援機器などを見せていただき、障害に関する知識を深めることができました。

●学外施設見学(土浦市立図書館) 11 月

2017 年秋に開館した土浦市立図書館を見学しました。自動書庫等の最新の設備に関心が高く、多くの質問が出て、今後の活動の参考となりました。



土浦市立図書館見学の様子

2 ボランティア懇談会 10 月

1 年間のボランティアの活動報告や、ボランティアの永年活動表彰を行いました。

3 ボランティア講演会 10 月

「超高齢社会における図書館サービス：協働と共生」

副館長 呑海沙織(図書館情報メディア系 教授)

4. 各種活動

1 見学案内

新入生や留学生、キャンパスツアーで来学した高校生、協定大学の教職員・学生を含む海外からのお客様など様々な来館者にそれぞれに応じた見学案内を行いました。海外からのお客様には英語をはじめ、インドネシア語や中国語、ロシア語での案内をし、好評をいただいております。

2 図書修理活動

表紙や背表紙が外れてしまった資料、ページが破れてしまった資料を修理する活動です。元の形をできるだけ残し、資料を傷めない修理を心掛けています。



劣化した革装の資料



修理後

3 日本文化紹介

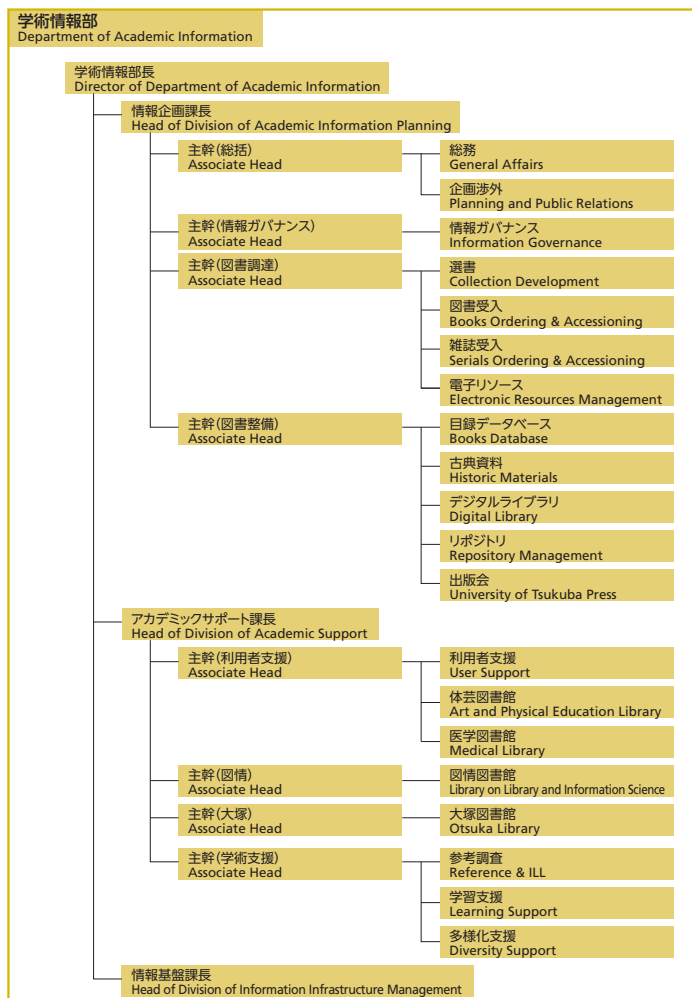
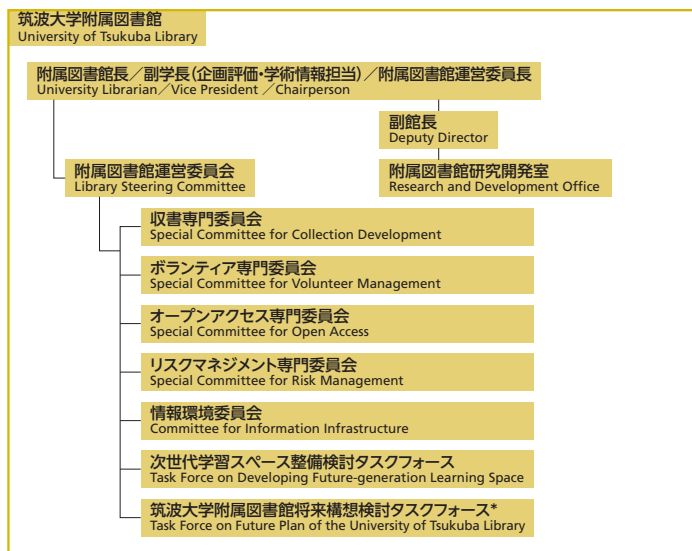


留学生に日本文化を紹介するための「おりがみ講習会」を 7 月、12 月、2 月の 3 回実施しました。多数のパーツを組み合わせるユニットおりがみ、1 枚の紙で作るカワサキローズ、季節に合わせ、おひなさまを作りました。本学の留学生だけでなく、本学を訪問した海外の学生なども参加し、会話

(多様化支援係長 飯田 貴子)

組織図・歴代図書館長

1. 組織図



(2019年4月1日現在／*は5月30日に新規設置)

2. 歴代図書館長

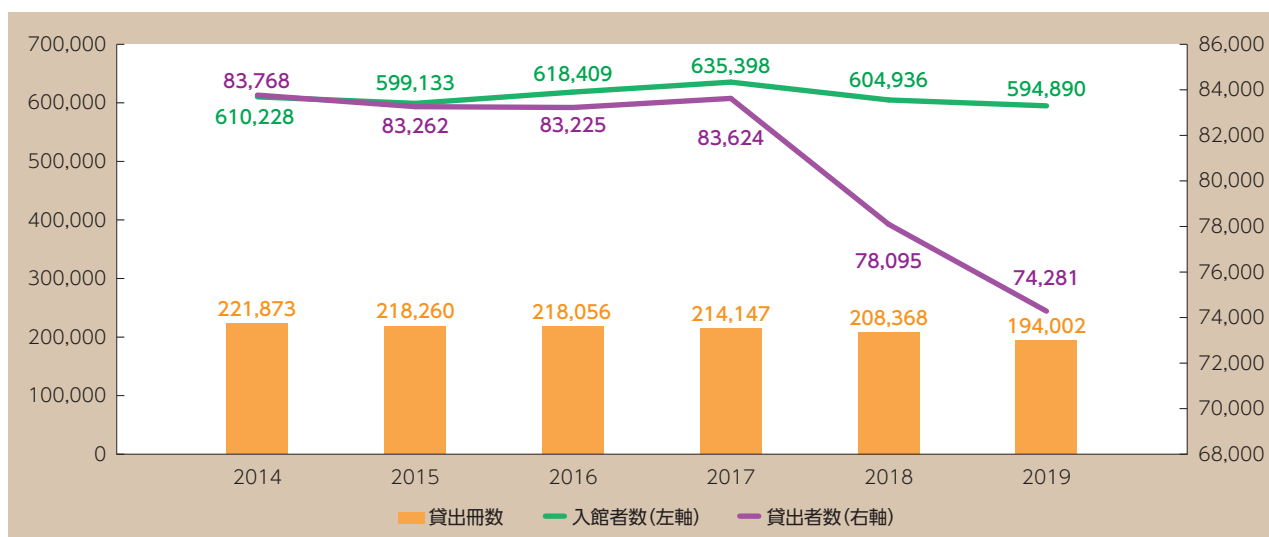
	氏名	期間	備考
高等師範学校・	三宅米吉	明治32年6月30日 ~ 明治36年9月6日	図書係事務監督
東京高等師範学校	三宅米吉	明治32年9月7日 ~ 明治44年4月29日	主幹
	松井簡治	明治44年4月30日 ~ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井簡治	昭和4年4月1日 ~ 昭和7年3月31日	
	諸橋轍次	昭和7年3月4日 ~ 昭和20年10月3日	
	能勢朝次	昭和20年10月4日 ~ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢朝次	昭和24年6月1日 ~ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ~ 昭和29年7月15日	
	中西清	昭和29年7月16日 ~ 昭和31年3月31日	
	熊沢龍	昭和31年4月1日 ~ 昭和33年3月31日	
	熊沢龍	昭和33年4月1日 ~ 昭和35年4月30日	
	肥後和男	昭和35年5月1日 ~ 昭和38年3月31日	
	山崎 宏	昭和38年4月1日 ~ 昭和40年3月31日	
	平塚直秀	昭和40年4月1日 ~ 昭和42年3月31日	
	酒井忠夫	昭和42年4月1日 ~ 昭和44年3月31日	
	宮嶋龍興	昭和44年4月1日 ~ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井忠夫	昭和44年4月28日 ~ 昭和46年4月27日	
	橋本重治	昭和46年4月28日 ~ 昭和47年3月31日	
	武藤聡雄	昭和47年4月1日 ~ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ~ 昭和53年3月31日	
筑波大学	三輪知雄	昭和48年10月1日 ~ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井忠夫	昭和49年5月1日 ~ 昭和50年4月1日	
	大饗 茂	昭和50年4月2日 ~ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ~ 昭和54年4月1日	
	宮嶋龍興	昭和54年4月2日 ~ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本敬二	昭和54年6月9日 ~ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ~ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司利男	昭和56年5月1日 ~ 昭和60年3月31日	
	松浦悦之	昭和60年4月1日 ~ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田公三	昭和60年4月3日 ~ 昭和62年6月8日	
	柳沼重剛	昭和62年6月9日 ~ 平成元年6月8日	
	小川圭治	平成元年6月9日 ~ 平成3年3月31日	
	新井敏弘	平成3年4月1日 ~ 平成5年3月31日	
	北原保雄	平成5年4月1日 ~ 平成9年3月31日	2期
	斎藤武生	平成9年4月1日 ~ 平成11年3月31日	
	板橋秀一	平成11年4月1日 ~ 平成13年3月31日	
	山内芳文	平成13年4月1日 ~ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日	
	植松貞夫	平成16年4月1日 ~ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日 ~ 平成24年3月31日	
	中山伸一	平成24年4月1日 ~ 平成28年3月31日	2期
	西川博昭	平成28年4月1日 ~ 平成30年3月31日	
	阿部 豊	平成30年4月1日 ~	



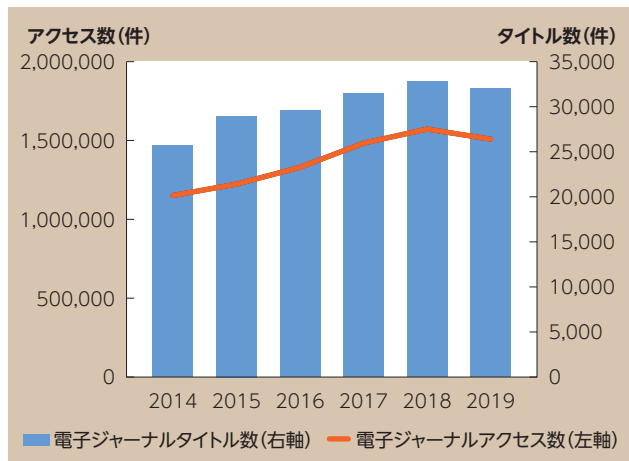
大塚図書館エントランス

1. 推移と分析

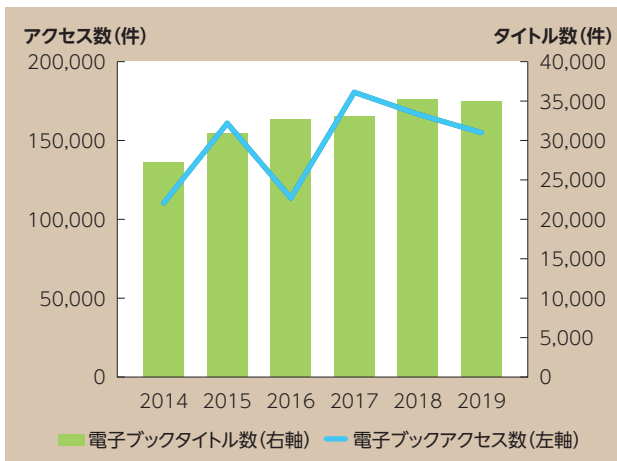
中央図書館入館者と貸出サービス利用状況



電子ジャーナル利用状況



電子ブック利用状況



2014年度以降の中央図書館入館者数と貸出サービスの利用者数、貸出冊数を抽出しました。

これによると、同図書館における入館者数および貸出された図書の冊数については、増減はあるものの大きな変化は見られません。一方、貸出者数は減少を続けています。そのほかの情報入手手段の利用状況として、図書館が提供する電子ジャーナルと電子ブックのアクセス数は増加していますが、このことのみをもって図書の貸出に代わる新たなコンテンツ利用となっていることを示す値であるとは言い切れません。

しかしながら、利用者が閲覧机に座り、蔵書から研究分野についての図書を探して読み、手持ちのタブレットから新着論文をダウンロードして講義課題をまとめてから帰宅する、といった学習スタイルが、統計から明らかに読み取れるようになれば、図書館が学習の場に定着したといえます。

中央図書館では2019年度中に、飲食可能場所設置の試行や、複数に分かれていたカウンターの統合など、入館者に対するサービス向上を目指した運用を始めています。こうした運用の変化が、図書館利用にどのような効果をもたらすか、今後も注視し続ける必要があります。

統計

2.利用統計

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日	233	236	236	244	244	—
	土・日・祝日	116	80	117	119	118	—
	合計	349	316	353	363	362	—
入館者数(人)	平日	503,429	88,654	138,148	46,416	45,766	822,413
	(学外者 内数)	18,931	1,500	3,717	3,215	15,848	43,211
	土・日・祝日	91,461	10,562	28,990	6,148	36,772	173,933
	(学外者 内数)	9,404	511	2,284	1,430	10,349	23,978
	合計	594,890	99,216	167,138	52,564	82,538	996,346
平均入館者数(人)	(学外者 内数)	28,335	2,011	6,001	4,645	26,197	67,189
	平日	2,161	376	585	190	188	—
	(学外者 内数)	81	6	16	13	65	—
	土・日・祝日	788	132	248	52	312	—
	(学外者 内数)	81	6	20	12	88	—
貸出冊数(冊)	1日当たり	1,705	314	473	145	228	—
	(学外者 内数)	81	6	17	13	72	—
	学群生	87,085	14,911	11,326	9,160	846	123,328
貸出利用者数(人)	院生	76,709	10,041	4,360	4,453	10,059	105,622
	教員	23,229	3,860	3,830	2,529	3,701	37,149
	学外者	6,815	606	724	1,224	710	10,079
	その他	164	10	0	0	0	174
	合計	194,002	29,428	20,240	17,366	15,316	276,352
	学群生	38,982	6,681	5,830	4,282	359	56,134
	院生	26,867	3,805	1,746	1,899	4,349	38,666
文献複写(コピー) (件)	学外提供	5,749	774	1,281	720	903	9,427
	学外者	2,402	218	285	514	326	3,745
	その他	15	1	0	0	0	16
	合計	74,015	11,479	9,142	7,415	5,937	107,988
	学外依頼	2,838	510	1,873	135	949	6,305
相互貸借(図書) (件)	学外貸出	1,578	152	338	62	110	2,240
	合計	4,416	662	2,211	197	1,059	8,545
	学外借受	1,254	91	46	33	277	1,701
レファレンス件数(件)	学外貸出	2,053	292	64	121	118	2,648
	合計	3,307	383	110	154	395	4,349
	学生	5,891	1,056	380	544	2,458	10,329
	教職員	3,210	347	2,073	246	563	6,439
	その他	1,812	52	10	188	1,089	3,151
資料に関するもの	合計	10,913	1,455	2,463	978	4,110	19,919
	資料に関するもの	6,433	873	2,405	339	2,255	12,305
	利用案内・指導	4,444	581	58	631	1,851	7,565
	事実に関するもの	36	1	0	8	4	49
	合計	10,913	1,455	2,463	978	4,110	19,919

webコンテンツアクセス数

webサイトアクセス件数	件
学内	523,028
学外	773,770
合計	1,296,798

つばりポジトリアクセス件数	件
メタデータアクセス数	1,146,829
本文ダウンロード数	4,926,568

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数	件
Cambridge Journals Online	9,424
JSTOR★	38,094
Nature	237,787
Oxford Journals	62,725
ProQuest Central	42,831
Science	41,538
ScienceDirect	721,544
SpringerLink	146,067
Wiley Online Library★	208,411

主要なデータベースアクセス件数(サーチ数)	件
Business Source Complete★	5,811
InCites-Journal and Highly Cited Data★	10,362
Lexis Advance★	8,793
Oxford English Dictionary	4,530
ProQuest Central	12,282
SciFinder	91,848
Web of Science	127,966
医中誌Web	77,772

主要な電子ブックアクセス件数	件
Cambridge University Press	911
ProQuest Ebook Central	6,562
Maruzen eBook Library*	3,152
NetLibrary*★	637
Springer	135,686
Wiley Online Library**★	8,029

*タイトルアクセス数(その他はセクションアクセス数)

**PDF, HTMLファイル取得数

★2019年度統計解析方法に変更あり

3.基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積(m ²)	19,330	3,518	2,793	2,848	1,552	30,041
座席数(席)	1,133	369	350	254	132	2,238
利用者用PC台数(台)	148	62	70	32	24	336

(※2019年度末現在)

図 書

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年度受入 冊数	(和洋区分) 和書	8,916	2,102	1,101	1,896	15,245
	洋書	3,866	143	127	130	4,385
	合計	12,782	2,245	1,228	2,026	19,630
	(受入区分) 購入	6,098	1,186	1,071	944	10,284
	寄贈	5,966	886	120	998	8,225
	製本	716	170	35	80	1,110
蔵書冊数	その他	2	3	2	4	11
	合計	12,782	2,245	1,228	2,026	19,630
	(和洋区分) 和書	1,128,966	200,606	94,295	185,491	1,664,129
	洋書	798,341	68,121	80,714	74,194	1,048,271
	合計	1,927,307	268,727	175,009	259,685	2,712,400

雑誌(冊子)

内 訳	年度受入タイトル数			所蔵 タイトル数
	購入	寄贈	計	
和雑誌	777	6,272	7,049	17,683
洋雑誌	406	813	1,219	12,914
合計	1,183	7,085	8,268	30,597

つくばリポジトリ 累積登録件数 (※2019年度末現在)

内 訳	件 数
学術雑誌掲載論文	10,708
学位論文全文	4,952
学位論文内容・審査の要旨	10,204
修士論文	330
紀要論文	21,133
研究報告書	3,987
会議発表資料	590
講義資料	154
研究業績目録	23
貴重書コレクション	132
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	65
その他(図書)	332
合計	52,705

電子ジャーナル契約タイトル数 (※有料契約のみ)

内 訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	398
JSTOR	962
Nature	30
Oxford Journals	258
ProQuest Central	20,000
Science	1
ScienceDirect	2,320
SpringerLink	1,608
Wiley Online Library	1,391
その他	5,050
合計	32,018

提供データベース・検索ツール

●主要契約データベース

データベース名
Business Source Complete
CINAHL
D1-Law.com
InCites-Journal and Highly Cited Data
Lexis.com
Oxford English Dictionary
ProQuest Central
PsycINFO
SciFinder
Web of Science
Westlaw Japan
医中誌Web
聞蔵II ビジュアル
雑誌記事索引集成データベース
ジャパンナレッジLib
日経テレコン21
毎索
ヨミダス歴史館

電子ブック契約タイトル 累積数 (※2019年度末現在)

内 訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	—	1,669
ProQuest Ebook Central	—	575
Maruzen eBook Library	1,192	210
EBSCO eBooks	490	1,040
Springer	—	26,547
Wiley Online Library	—	1,128
その他	34	3,774
合計	1,716	34,943

